

単
元
名

～こまっているともだちに～

くりのみ

教科書出版社名（学研）

○ 小学校（1）年 教科等（道徳）

○ 「自ら学ぶ子どもの育成」に向けて、この単元で付けたい力

- ・友だちと仲良く活動し、助け合うことの大切さに気づく。
- ・困っているときには互いに助け合おうとする心情を育てる。

○ 学校図書館活用のポイント

- ・道徳の場面設定で、秋から冬にかけて色づく森の風景や食べ物が乏しくなる森の様子や冬の厳しさが伝わる情景の写真、もしくは絵本資料を学校司書が選定した。
- ・落ち葉や木の実のできるおもちゃの図書を選定し、児童に紹介した。
- ・学習後、秋の野山の動物のくらしや冬の動物たちのくらしについての絵本を自由に読書できるように図書室から教室前に配置した。

○ 学習の展開（全9時間）

第1次 生活	ひろがれえがお たのしもうあき ・運動場や公園に行き、夏とちがうところがたくさんあることに気づく。 ・見つけた秋を紹介する。 ・どんぐりやまつぼっくりでおもちゃを作ったり、落ち葉をうつし絵にしたりして遊ぶ。
第2次 図画工作	・秋の野山の落ち葉やどんぐりなどを画用紙で作る。
第3次 道徳	「くりのみ」 ・うさぎのやさしさに触れ、変化するきつねの姿を通して、友だちと仲良く活動し、助け合うことの大切さに気づき、困っているときには互いに助け合おうとする心情を育てる。
第4次 国語	・読書の時間などに秋から冬にかけての森の風景や冬の厳しさが伝わる本を読む。



【取組みを終えて】

○ 学校図書館を活用した学習における成果と課題

① 成果	<ul style="list-style-type: none">・（生活）校庭や公園だけではわからない秋の野山の様子を捉えることができた。・（道徳）想像力が乏しい児童でも、秋の野山の写真を提示することで、食べ物が乏しい季節であることを理解して学習に臨むことができた。・（国語）教室前に提示することで、興味をもって読書をする児童が多くなった。
② 課題	<ul style="list-style-type: none">・授業で使用した図書と関連する本を学校図書館にも目立つように提示すればよかった。
③ 児童の感想・ふりかえり	<ul style="list-style-type: none">・たべものがたくさんあるのに、うさぎさんにたべものをわけてもらったのがわかったとおもっているよ。・にこしかもってないのに、じぶんはなにもあげなかったからすごくもうわけない。・ごめんね。ほんとうはどんぐりをいっぱいいたべちゃったの。うさぎちゃんごめんね。

○ 学校図書館を活用した際に注意した点や学習の中で工夫した点について

<ul style="list-style-type: none">・特に低学年は、日々の生活の流れにそって学習できることで意欲・関心が向き、見通しをもつことができると考え、「秋」の季節で生活科や図画工作科と関連して学習し、ストーリー性をもって臨むことができた。その際に「秋」や「初冬」の関連本を子どもたちの目に触れることができるようにすることでさらに意欲を高めるようにした。・絵本だけでなく、写真絵本を置くことでイメージをつかみやすくした。
--

【道徳提示資料】

「花のたね・木の実のちえ④どんぐりとリス」 偕成社 多田多恵子監修

【教室前展示図書】

「ぽっかぽかだいすきおさるさん」 ポプラ社 福田幸弘 写真/文
「キタキツネのあかちゃん」 ポプラ社 勇気モイラ/文・福田幸弘/写真
「シマリス 北の国からの動物記」 アリス館 武田津実 文/写真
「クマよ たくさんのふしぎ傑作集」 福音館書店 星野道夫 文/写真
「こおりのくにのシロクマおやこ」 ポプラ社 前川貴行・著
「森のお医者さん⑤シマリスはたねまきじょうず」 国土社 竹田津実/著
「日本列島いきものたちの物語」 ポプラ社 出田恵三/文